

## 令和4年第9回狭山市定例教育委員会会議議事録

開催日時 令和4年9月28日(水)  
午後3時30分から午後4時45分まで

開催場所 市役所 5階 教育委員会室

出席者 教 育 長 滝 嶋 正 司  
教育長職務代理者 吉 川 明 彦  
委 員 橋 本 秀 樹  
委 員 宮 崎 英 子  
委 員 安河内 由 香

欠 席 者 な し

委員及び傍聴人を除くほか、議場に出席した者の氏名

生涯学習部長	内 藤 光 重	次長兼教育総務課長	關 根 浩 由
社会教育課長	石 井 巳代子	スポーツ振興課長	奥 富 喜 和
学校教育部長	田 中 義 久	次長兼教育指導課長	宇佐見 昌 義
教育センター所長	今 福 雅 之	書 記	上 村 理 恵

会議の公開・非公開 公 開

傍 聴 者 数 0 名

報告事項

- ・令和4年第3回狭山市議会定例会の概要について

報告者 (生涯学習部長)  
(学校教育部長)

(要旨)

会期は、9月1日(木)から9月30日(金)までの30日間の予定であり、議案は、人事案件5件、一部改正条例5件、補正予算4件、決算認定6件、剰余金処分2件の合計22件である。

一般質問については16名の通告があり、うち教育委員会関係は6名であった。大沢えみ子議員からは難聴対策について、金子広和議員からは小・中学校について、笹本英輔議員からは校則と給水スポットについて、高橋ブラクソン久美子議員からは図書館と給食費の無償化について、加賀谷勉議員からはケアラーを支援する施策の推進について、西塚和音議員からは指定管理者制度の中にある公民館のあり方について、それぞれ質問があり、それに対する答弁の内容について報告がなされた。

・令和4年度博物館夏期企画展の開催結果について

報告者（社会教育課長）

（要旨）

夏期企画展「狭山 de 妖怪展」は、7月2日（土）から9月4日（日）まで57日間開催し、入館者数は11,945人であった。今回は、学習院大学史料館所蔵の「百鬼夜行絵巻」を展示し、この絵巻に登場する妖怪の内、古道具の妖怪を博物館の民俗資料を用いて紹介するとともに、狭山市に伝承されている妖怪の民話や、現在親しまれている妖怪のキャラクターなどをあわせて、妖怪とその文化的な背景について身近に感じてもらうことを目指した。来館者アンケートでは、多くの方から「とても良い」「良い」という感想をいただいた旨の報告がなされた。

・令和4年度狭山台プールの利用状況について

報告者（スポーツ振興課長）

（要旨）

狭山台プールについては、新型コロナウイルス感染症の感染拡大の影響を受け、3年ぶりの再開となった。7月23日（土）から8月31日（水）までの間、台風8号の関東上陸の影響を受け臨時休業した8月13日を除き39日間開設し、利用者数は、小学生以下1,691人、中・高校生212人、一般1,065人、合計2,968人であった。3年前の令和元年度と比較すると、合計利用者数で1,166人、28.2%の減となった。使用料収入は、519,000円であり、令和元年度に比べ、177,150円、25.4%の減となった旨の報告がなされた。

・令和4年度埼玉県学力・学習状況調査の概要と主な結果について

報告者（教育指導課長）

（要旨）

平均正答率を見ると、小学校については、すべての学年・教科において埼玉県の平均を下回り、中学校については、中学1年の国語・数学が県平均を上回った。中学2年の国語は県平均を下回り、数学では県平均を上回り、英語は県平均と同率であった。中学3年では、3教科とも県平均を下回った。

令和3年度からの同集団における学力の伸びの結果を見ると、小学5年・6年の算数、中学1年と2年の数学が県の伸びを上回った。県の伸びを下回ったのは、小学6年の国語と中学3年の国語と数学であった。この伸びについては、児童・生徒の学習の成果であり、教員による学習指導の効果を表しており、本市においては、伸びのあった該当教科や該当学年では、日頃の授業が充実していたものと考察している。

学力を伸ばした児童・生徒の割合が、小学5年・6年の算数と中学1年・2年の数学で、県の割合を上回ったことについては、今後、どのような取組が児童・生徒の伸びにつながったのか、詳細な分析を行い、成果を共有して他学年の学習指導にも活かしたい。今後、学校ごとの分析を進め、自校の課題を職員と共有しながら、2学期以降の学習に反映できるよう研修を進めていく。さらに、

大きな伸びが確認できた学校については、昨年度の取組について聴取し、他校の取組に活かせるよう情報発信を行っていく。「規律ある態度」の達成目標について、80%の数値目標で見ると、ほとんどの項目で、県平均又は県平均を上回る結果となっている。課題は、「整理整頓・あいさつ・話を聞き発表する」の項目が挙げられ、県についても同様の状況である。特に、本市では、あいさつについて、県平均を下回っている学年が多く見受けられる。このことについては、学校だけでなく、家庭や地域とも連携を図りながら意識的に取り組む必要がある旨の報告がなされた。

・令和4年度全国学力・学習状況調査の概要と主な結果について

報告者（教育指導課長）

（要旨）

平均正答率については、小学6年の国語・算数で全国平均を下回り、理科は0.7ポイント上回った。中学3年では、国語・数学・理科3教科とも全国平均を下回った。埼玉県との比較では、県平均正答率は、中学校の理科以外は全教科、全国の平均正答率を上回っており、県全体の平均正答率が上がってきていることが分かる。令和3年度は、どの学年、どの教科も全国平均との差を縮める結果であったが、今年度は、小学校の国語で全国平均との差を0.1ポイント縮めたが、算数では差が縮まらず、中学校国語では0.2ポイント、数学では2.2ポイント差が広がる結果となった。

平均無回答率については、小学6年の理科と中学3年の国語を除いては、全国と比較しても高い状況である。昨年度の結果より、全国との差が縮まった学年もあるが、課題の一つと捉えている。ここを改善することで、さらに全国との差が縮まると考えている。

各学校・教科ごとの結果を見ると、国語については、小学校では「言葉の特徴や使い方に関する事項」、「書くこと」、中学校では「話すこと・聞くこと」、「思考・判断・表現」に課題が見られた。問題形式については、小学校では記述式が全国平均を上回ったが、短答式では課題が見られ、中学校では記述式に課題が見られた。算数・数学については、小学校では「図形」「変化との関係」、中学校では「図形」、「関数」、「思考・判断・表現」にも課題が見られた。問題形式では、小・中学校ともに記述式に課題が見られた。理科については、小学校ではどの項目も、概ね全国を上回るか同程度であった。中学校では「エネルギー」、「地球」領域に課題が見られた。問題形式では、小・中学校とも国語・算数・数学の記述式に課題が見られた。

児童生徒質問紙調査結果を見ると、小学校では「国語の授業で学習したことは、将来、社会に出たときに役立つと思う」の項目で1ポイント下回った以外では、全国を上回った。特に、「家で自分で計画を立てて勉強している」の項目は、全国平均を4.9ポイント上回っている。今後の学力の伸びが期待できる結果と考えている。中学校においても、3項目を除き全国平均を上回っている。「将来の夢や目標をもっている」は、全国平均を2.5ポイント下回っている。今後は、進路指導やキャリア教育の工夫・充実が必要と考えている。

学校質問紙調査結果では、小学校では 5 項目中、3 項目で全国平均を上回っている。中学校では、1 項目を除き、全国平均を下回っている。児童生徒同士の ICT 機器のやりとりについては、「ほぼ毎日行った」という値になっていること、児童生徒同士がやりとりする場面は限定されているという理由から、小・中学校とも 0% という結果になっている。昨年度、本市でも 1 人 1 台端末が児童生徒全員に配付され、授業等での活用を推進しているところである。児童生徒間同士でのやりとりについては、全国的にも 1 割程度の使用となっていることから、今後の研究課題の一つとして捉えている旨の報告がなされた。

委員から質疑等では、児童生徒質問紙調査結果を見ると、「先生はあなたのよいところを認めてくれている」の項目について、全国平均より高いので、先生方が一人一人をきちんと丁寧に見て認めていることが、子どもたちにも伝わっていることが分かる。今後も先生方は大変かと思うが、一人一人の行動をしっかりと見て、よいところを認めほめてほしい旨の要望に対し、この点は、本市の強味と考えており、具体的にどこがよくてほめたのか、その伸びを評価することが必要と考えており、さらに教育委員会としても広げていきたい旨の答弁がなされた。

学校によって取組の違いはあるのかとの質疑に、学校間格差はあると認識している。テストのやり方にも違いがあると聞いているが、テストのための勉強にならないように、また、本来の実力が出るように、日頃からの学習の取組が大事と考えている旨の答弁がなされた。

・令和 4 年度スクールカウンセラー活動状況等について

報告者（教育センター所長）

（要旨）

スクールカウンセラーは、小学校 15 校には 4 名配置し、平均 1 か月に 1 回程度の割合で学校を訪問し、中学校 8 校には 6 名配置し、平均 1 週間に 1 回程度の割合で学校を訪問することになっている。活動内容は各学校により異なるが、計画的に保護者との面談を取り入れたり、不登校児童生徒との面談を実施している。4 月から 7 月までの相談実件数は、中学校 103 件、小学校 77 件である。スクールカウンセラーが関わりを持った相談件数のうち、いじめは小学校で 1 件、不登校は中学校で 44 件、小学校で 18 件である。スクールカウンセラーが関わりを持ち、他機関等に相談した事例の中学校 9 件は、教育センターやこども支援課と中学校との情報交換などである旨の報告がなされた。

・令和 4 年度『中学生学習支援事業「さやまっ子・茶レンジスクール」』夏季集中講義の結果について

報告者（教育センター所長）

（要旨）

市内 8 中学校の全学年を対象に夏季休業中の 6 日間、英語・数学・国語の 3 教科について講義を実施し、延べ 1,945 名の参加があった。登録したが欠席した理由は、当日の体調不良、家族の体調不良、家庭や部活動の予定の変更など

であった。事前・事後のテストの結果を見ると、前後で同じ問題に取り組んだが、どの教科においても、平均点の伸びが見られ、学習の成果が確実に上がる事業と考えている。伸びの小さな学年・教科については、達成感を感じさせるために、事前テストの問題の難易度を少し上げる必要があると考えている。

なお、冬季休業中も3日間の実施を計画している旨の報告がなされた。

委員からの質疑等では、入間野中学校では、講師を1名追加し、4名体制で実施したとのことだが、2クラスに分けたのかとの質疑に、1年生の出席予定者が40名を超えたので、2クラスに分けた旨の答弁がなされた。追加された講師1名は、3教科を教えられる方かとの質疑に、各教科1名ずつ追加された旨の答弁がなされた。委員からは、本事業は、参加者の達成感を感じさせることと、自主学習・家庭学習を頑張ろうというきっかけづくりが目的の一つであるから、達成感が得られるような事前テストの設定を検討してほしい旨の要望が出され、委託業者とも相談しながら、内容について検討したい旨の答弁がなされた。

1年生の参加数が2・3年生の倍以上あり、この生徒が、今後も定着して参加できるような事業にしてもらえるとよいのではとの質疑に、広報活動を強化する旨の答弁がなされた。

#### ・狭山市教育委員会後援名義の使用行事について

報告者（社会教育課長）  
（スポーツ振興課長）

（要旨）

社会教育課関係3件、スポーツ振興課関係1件の後援名義使用承認の申し出があり、審査の結果、使用を承認した旨の報告がなされた。

## 議 案

### 議案第41号 令和5年度当初狭山市立小・中学校教職員人事異動方針及び令和5年度当初狭山市立小・中学校教職員人事異動方針細部事項について

埼玉県教育委員会から、令和5年度当初教職員人事異動の方針が示されたことから、令和5年度当初狭山市立小・中学校教職員人事異動方針及び令和5年度当初狭山市立小・中学校教職員人事異動方針細部事項を定めるため、提案がなされたものである。

委員からの質疑等では、再任用の希望は該当者から聴取しているかとの質疑に、担当から11月に調査を行う旨の答弁がなされた。異動に関して、校長によるヒアリングは行うのかとの質疑に、異動希望のある教職員とは十分なヒアリングを行いながら進めるよう指示している旨の答弁がなされた。ヒアリングが反映されていないケースもあるようだがとの質疑に、教頭同席のもと、記録に残すなど、トラブル

が生じないように行うよう指示した旨の答弁がなされた。

議案第 41 号については、原案可決した。

以 上